

近畿大学 工学部
令和 6 年度 自己点検・評価報告書

数理・データサイエンス・AI 教育応用基礎
プログラム（工学部）

令和 7 年 4 月

1. 自己点検・評価の実施

工学部にて実施している「数理・データサイエンス・AI 教育応用基礎プログラム（工学部）※」について、工学部・大学院システム工学研究科自己点検評価委員会が自己点検・評価を行った。

2. 自己点検・評価の対象科目

自己点検・評価の対象の科目は以下の通り。

「線形代数学Ⅰ」
「微分積分学Ⅰ」
「微分積分学Ⅱ」
「データリテラシー入門」
「データサイエンス特講」
「データサイエンス実習」
「プログラミング特講」
「化学生命工学概論」
「化学実験」
「生物工学実験」
「応用情報処理Ⅰ」
「物質化学実験」
「化学生命データサイエンス」
「確率統計学」
「プログラミング」
「機械工学基礎実験Ⅱ」
「計測工学」
「プログラミング基礎」
「プログラミングⅠ」
「プログラミングⅡ」
「人工知能」

3. 点検項目と評価

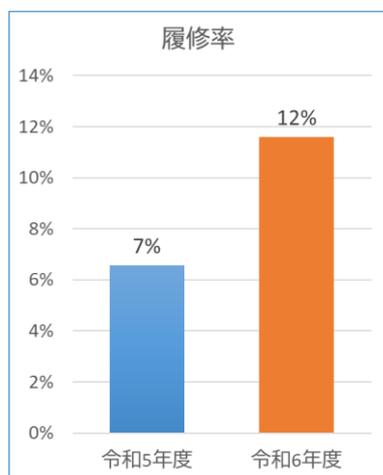
実施しているプログラムについて、以下の項目で自己点検・評価を行った。

- ・履修、修得状況
- ・学修成果
- ・学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度
- ・履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

4. 自己点検・評価結果

①履修・修得状況

学部名	学生数 R6.5.1現在	入学定員	収容定員	履修者数	修了者数	履修率 (履修者数/収容定員)
工学部	2,288	545	2,180	265	0	12%



令和6年度の本教育プログラムの履修率は全学生で12%となり、前年度の7%から5%上昇した。一方、プログラム履修対象の令和5～6年度入学生における履修率は20%で、前年度の24%から4%減少した。ガイダンスや履修要項での周知を行っているものの、周知が十分でなかった可能性がある。

本教育プログラムは各学科において1学年から2学年または1学年から3学年までが配当学年となる複数科目で構成している。令和6年度において本プログラムの修了者はいなかった。

②学修成果

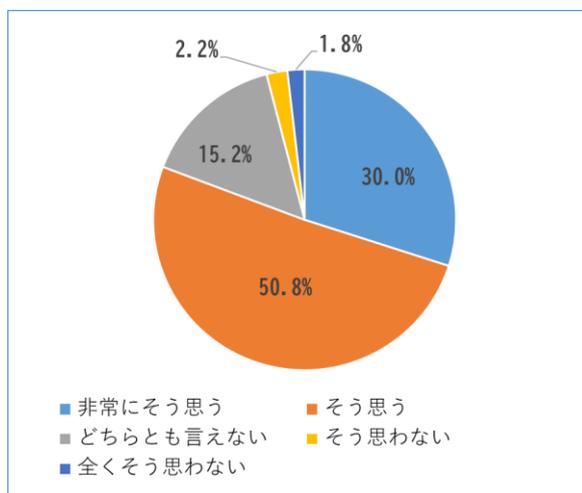
各科目の到達目標は、シラバスにて具体的に明示したうえで、目標の習熟度について、適宜小テストやレポート課題、定期試験を実施することによって確認した。

また、授業評価アンケートを実施し、授業内容の理解度の把握を行った。

この結果を教育システム改善委員会、教務委員会と連携し、プログラムの改善・進化の検討に活用する。

③学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

【設問内容】この授業を受けることで、自分の知識や考えが深まりましたか。				
非常にそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
30.0%	50.8%	15.2%	2.2%	1.8%



「授業評価アンケート」の設問において、授業ごとの理解度やシラバスの学修到達目標の達成度を把握している。

令和6年度実施した科目において、受講者の32.0%からアンケートの回答を得た結果、授業を受けることで自分の知識や考えが深まったかの問いに対し、「非常にそう思う」と回答した学生が30%となった。「そう思う」と回答した学生50.8%を含めると、肯定的な意見が80.8%と非常に高い割合と

なった。今後は、到達目標の達成度が相対的に低かった科目において学修状況が順調でないと思われる学生を早期に抽出し、学修支援を充実していく必要がある。

④履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本教育プログラムは令和5年度開設であるため、現時点では履修対象者が2学年（令和5,6年度入学生）のみであり、全学的な履修率からみると履修率は低い。今後年次進行に伴い、収容定員に対する履修率は向上が見込まれるが、単位取得に困難を感じてプログラムから離脱（履修取り消し）が生じることが予想される。履修率の向上や離脱率を低下させるため、引き続きガイダンスや学生向け広報等で本教育プログラムの目的と学修内容の社会的有用性を学生に周知する必要がある。

令和7年度からは、一部の学科において、専門科目の必修科目でプログラム修得要件の大半を満たせるようプログラム構成の変更を行う予定で、これによりさらなる履修率の向上をめざす。

また、数理・データサイエンス・AI分野に特化した学科共通科目の開講の検討や、修了証の発行などにより、プログラムの満足度向上、修了率の向上をめざす。

以上